



# 五小だより

7月号

令和6年6月28日(金)  
国分寺市立第五小学校  
042-322-0045  
校長 齋藤 晃



五小ブログ



五小ボランティア

## 「主体的な学び」の実現に向けて

校長 齋藤 晃

子どもたち全員が教室の黒板に向かって座り、示された問題や活動に一齐に取り組む。暫くして「できた人」「わかった人」「説明できる人」など教師の声に、子どもたちが挙手し指名されて発表する。我々大人の多くが体験してきた、学校の授業風景ではないでしょうか。

現行の学習指導要領では、育成を目指す資質能力を「個別最適」で「主体的・対話的で深い学び」を通して実現することが示されました。学校では「学習者＝子ども」の視点に立ち、子ども一人一人の学ぶ意欲の向上や、「学び方」の習得も考えた授業の実現を目指しています。これまでの授業スタイルが否定されるわけではありませんが、日本各地の学校で「これからの授業スタイル」の実現に向けた様々な取組が行われています。

「これからの授業スタイル」の一つの例では、教科の単元内で進度や道筋が、学習の主体者の子ども一人一人に委ねられます。学習の課題について、子どもが「わかりたい、できるようになりたい」「なんとか自分で解決したい」という必要感や探求心、解決意欲をもって「主体的な学び」を進めます。一人で解決できない課題は、共に学びを進める友達との対話を通して協働的に解決していきます。「調べる」「考えを共有、検討する」「表現する」などの場面では、学習者用タブレット等 ICT の活用も欠かせません。「主体的な学び」は学ぶ喜びも大きく、様々な面で効果的・効率的であると言われます。また、子ども一人一人が自分に合った「学び方」を数年かけて身に付けていくことも、「主体的な学び」の目指すところの一つです。今年度、国分寺市立の小中学校で始まった「国分寺学」では子どもたちが主体的に地域と関わり、見つけた地域の課題を自分自身のこととして解決に取り組むなど、地域に根差した探求的な学習を進めます。「国分寺学」の学習でも「主体的な学び」のチャンスがたくさん生まれることが期待されます。

とはいえ、子どもに学びを委ねる等これまで経験してこなかった授業スタイルを新たに構築していくことに、我々現場の教師が不安を感じていないわけではありません。本校でも、これからの時代を生きる子どもたちの「主体的な学び」の実現に向けて「これからの授業スタイル」を模索しているところです。経験や慣れにとらわれず、我々教師も主体的に大きく飛躍する勇気をもって授業改善に臨んでまいります。

少し早いですが、7月19日に1学期が終わります。保護者、地域の皆さま、本校へのご理解ご協力ありがとうございました。ご家庭では、お子様と1学期を振り返っていただくとともに、夏休みにしかできない体験をするなど、安全でよい夏休みをお過ごしくださるよう願っています。

2学期も、本校では日々の授業や行事を通して子どもたちの「主体的な学び」の実現に向け、チャレンジや工夫をさらに続けていきます。ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。